

第5回 コウノトリ但馬空港のあり方懇話会 議事概要

日 時 令和7年11月14日（金）14:45～17:00

場 所 但馬空港ターミナルビル1階 多目的ホール

1 地域活性化や観光振興等のために但馬空港が果たす役割は、コロナ禍を経た今でも大きい

- ・ 但馬空港は、伊丹空港を経由し、首都圏だけでなく地方へもアクセスが便利で、鞆・製造業等ビジネスにおいて不可欠なインフラである。
- ・ ビジネス利用が多く、日帰りの大阪研修等でも活用している。路線を維持しておくことは但馬地域にとって役に立つ。
- ・ ビジネス需要は、コロナ禍によるオンライン会議の進展で世界的にも減少傾向。今は観光需要が増えている。空港利用は派生需要（交通手段）であり、移動意欲を促す取組みなど根本的な解決が必要。
- ・ 少子高齢化が進む但馬地域では、豊富な観光資源による地域外からの誘客で交流人口を増やすことが必要で、鉄道やバスと共に、空港という選択肢があることが重要。
- ・ 山陰近畿自動車道の整備により東西軸の整備も進む。空港を中心に、道路を使った新たな広域観光商品の開発も考えられる。京丹後地域との連携も進めており、これから更に重要なになってくる。アウトバウンドの面でも、山陰近畿道、北近畿豊岡道の整備によりアクセスが良くなり、利用者増につながると期待。
- ・ 芸術文化観光専門職大学の開学により、オープンキャンパス、入試、学会など、様々な機会に空港を利用する人が増えており、以前になかった需要が生まれている。
- ・ 東日本の方は、高付加価値化が進む城崎に一度来てみたかったが、きっかけがなかったという人が多い。豊岡演劇祭が来訪のトリガーになっており、6～7割がリピーターになっている。そういう人たちにとって、飛行機という移動手段があることが大きい。
- ・ 大学ができ、演劇祭が盛んになり、但馬地域に夢が生まれている。夢や可能性を広げるために空港や交通事業者が果たすアクセス面での役割は大きい。
- ・ 但馬空港は観光の玄関口として、安全性と利便性を維持しつつ発展してほしい。最近の観光客は時間価値を重視する傾向で、空港はその価値を高めるツール。
- ・ コロナ禍を経て、災害時の対応や観光の玄関口、潜在需要である外国人旅行者の移動手段、空港ならではの需要創造など空港の存在価値は高まっている。
- ・ 航空路線の存在により交流人口は拡大し、地域の発展にも繋がる。今年度、若年層を対象とした運賃の利用者も多く、但馬地域の学生利用にもつながっている。

2 能登半島地震を契機として、空港が果たすべき防災面での役割がクローズアップされており、但馬空港についても、より一層防災機能に着目する必要がある。

- ・ 地域に何か起こったときに使える空港であることが重要。中山間地域が多い但馬地域では、ドローン等新しい手段を使い、地域防災や物流での活用を検討し、コンパクト+ネットワークという形で地域に資する空港になるのではないか。
- ・ 第3次医療機関である豊岡病院と連携した広域防災拠点として更なる強化に期待している。大規模災害時の物資集積・輸送拠点として、また、滑走路を活用した被災地への迅速な救援物資輸送・搬送拠点として活用すべき。
- ・ 防災拠点の強化は、地域住民にとって「もしもの時の拠り所」が明確になることで、安全安心なまちづくりに直結すると考えている。
- ・ 空港が災害時に果たす使命は大きい。東日本大震災や熊本地震等で地上交通が寸断されたときは、点と点を結ぶ拠点網として機動力を活かせた。

3 空港がその役割を果たすには、法令で定められた RESA 整備が欠かせないが、大きな財源が必要。地元を中心とした利用促進活動の現状を確認し、今後どのように進めていくのかが重要課題である。

一方、滑走路延伸について要望があったが、財源等の観点から現実的ではないのではないかという意見もあった。

- ・ 但馬空港の利用促進策や新たな利活用方法の検討にあたっては、定期便運航が大前提。兵庫県においては、滑走路端安全区域（RESA）の対応を適切に行ってほしい。
- ・ 利用促進については、これまで地元が実施している運賃助成をはじめ、新たな利用促進施策にも積極的に取り組むことにより、但馬伊丹路線の需要を盤石なものにしたい。
- ・ RESA 整備は着手期限が決まっているので、着実に進めていただきたい。開港時、切土と盛土のバランスをよく考えて工事しており、100m 伸ばすには、工学的な工夫を凝らし、RESA 対応による空港の安全確保を進めてほしい。
- ・ 但馬空港は写真を見ても大変な地形で、RESA 対応は相当な予算がかかると思われる。100m 拡張のみとするのか、延伸も考えるのか、費用対効果を見ながら検討してはどうか。
- ・ RESA 整備を滑走路短縮で対応するとなると、座席数の制限など運航上の制約が発生する。
- ・ 2,000m 級の滑走路の実現に期待している。今の滑走路を前提とした活性化案は京丹後地域では限定的。滑走路を延伸すれば、首都圏やアジアとの連携が直接図れる。
- ・ 滑走路延長は大きな可能性を持っているが、大きな予算措置が必要であり、当面は乗継を前提とした利便性を追求すべきではないか。

4 就航率を高め、安定的に就航することが重要である。

- ・ ビジネス客がやや減ってきてている印象。最近は天候によらない欠航も多いと聞いており、機材繰りによる欠航は信頼度が低くなるので、定時性確保と安定的な運航を望む。
- ・ 但馬空港の就航率は非常に厳しい。天草空港もほぼ同じ 90%。青森空港は高台や降雪など環境は似ているが、就航率が高い。それは、3,000m の滑走路長で、カテゴリー3 対応の計器着陸装置（ILS）がある等インフラが非常に充実しているからである。

- いかに就航率を上げていくかが肝要。滑走路延伸は現実的ではないので、ナビゲーション技術の向上やシステムの実用化、導入について、機材など航空会社の協力を得ながら課題に対応する必要がある。
- 運賃助成や小学生社会見学の搭乗体験などにより空港の利用促進に取り組んでいる。若年層への利用促進は将来への需要にも繋がるので、欠航でそうした機会が失われることがないよう望む。

5 東京便実現への期待がある一方、神戸・関空・成田等、新たな路線拡大の可能性を考えるべきではないかという意見もあった。

- 地元の悲願が東京直行便。また、国際化が進む神戸空港との路線が実現すれば、ビジネス利用の利便性が上がる。
- 現行は朝夕2便なので、間にもう一便あれば、ビジネス時間が増加するなど、利便性が上がる。また、国際チャーター便の運航が始まり、海外とつながった神戸空港など伊丹便以外の路線もあればよい。
- 但馬地域の交通ネットワークは進化を続けている。開港時、伊丹空港とのネットワークは重要だったと理解しているが、今後も就航先として最適かは検討を続けることが大切。
- コロナ禍前からの環境変化である「インバウンド」、「神戸空港の国際化」等を考慮すると、伊丹便から神戸便への切り替えも検討してはどうか。羽田就航を望む声は理解できるが、東京間のアクセス性が向上した成田空港への就航がいいのではないか。
- 長期的に日本人の人口は減少傾向であり、国内マーケットは縮小が見込まれる観光業では、インバウンド獲得が必要。関空とか神戸空港と結び、インバウンドを獲得することも重要なポイント。但馬空港には、地域の観光の玄関口としての機能を高めていっていただきたい。

6 その他意見（外国人観光客対応、バス・空飛ぶクルマ・ドローンの活用、マーケティングの強化、二次交通・ネットワークの強化、空港ターミナルビルの更なる利活用等）

- 新たな需要の掘り起しとして、主に城崎温泉を訪れる外国人観光客を取り込みたい。現状、外国人観光客の但馬空港利用はあまり見られないことから、まずは但馬空港を知つてもらうことから段階を踏んでいく必要がある。
- インバウンドの多くが国内移動に地上交通を使っており、航空機がほとんど利用されていない。関西地区に訪れる多くのインバウンドを、空港を活用し各地に運ぶことも、大きな課題の一つ。
- 但馬空港の新たな利活用として、飛行機・高速バス・路線バスの交通結節点として機能する可能性がある。
- 但馬空港には、地域と他拠点を結ぶ広域ネットワークのハブとしてあり続けてほしい。
- 二次交通は地元の方は車、地域外の方は路線バスを利用しており、城崎以外にもニッチであるが香住・京丹後・出石等にも需要があり、その対応が望ましい。将来的には、城崎への路線バス以外のアクセスとして空クルにも期待したい。発着場以外の利活用を考える

のであれば、二次交通は重要。

- ・ 関係機関による空飛ぶクルマの社会実装に向けた取組みも進んでおり、その発着場所として、但馬空港を活用したい。また、但馬空港の芝生広場などを活用して、子育て世代を対象とした交流施設や公園等の設置を検討したい。
- ・ 但馬空港に到着した人の訪問先について、豊岡市が大半を占めることが課題。行政区域を超えた空港発着モデルコースの設定や、旅行目的地として選んでもらうマーケティング活動の強化等に取り組んではどうか。
- ・ ターミナルビル等の設備について、開港から 30 年が経ち老朽化が進んでいる。賑わいの拠点、交流の拠点として、快適な環境づくりが重要。空調の更新など設備面の改善も必要。
- ・ 空港が地域のミニテーマパークになるような、集客交流拠点としての魅力づくりが必要。また、通常より飛行高度が低い ATR 機に乗ること自体がアトラクションになるという発想を持つと面白い。
- ・ 西日本唯一のスカイダイビング拠点や、川・海・山でのスポーツの拠点としての活用など、スポーツツーリズムの拠点としても活用できるのではないか。
- ・ 但馬京丹後地域は金属加工業も盛んで、京丹後の業者は名古屋で仕事をしている。航空機産業により地元の産業に資するような空港の活用の仕方もあるのでは。
- ・ 豊岡演劇祭は、これまで但馬地域の観光需要が最も低かった 9 月に実施し、ホテルの予約が取れないなど活況を呈している。文化観光はシーズンを問わず、ターゲットを絞ることができ、アートはイメージ戦略としても非常に有効。